

SERI NEWS RELEASE

平成 22 年 5 月 26 日

財団法人静岡経済研究所
理事長 古知弘行
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

2010 年ゴールデンウィーク動向調査

～天候に恵まれ、人出は前年比+5.3%増加～

二〇二〇年ゴールデンウイーク動向調査

天候に恵まれ、人出は前年比5.3%増加

◆今年のゴールデンウイーク期間中（4/29～5/9）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設242カ所の人出の合計は、延べ612万人、前年比+5.3%の増加となった。

◆イベントや施設の動向（人出）は以下の通りである。

- ①イベント、祭り（38先）……………277万人（前年比+16.1%）
- ②アミューズメント施設、参加・体験型施設（99先）…260万人（前年比△ 0.3%）
- ③動植物園、水族館（22先）…………… 38万人（前年比△12.4%）
- ④博物館、美術館、歴史資料館（49先）…………… 20万人（前年比△ 3.8%）
- ⑤日帰り温浴施設（34先）…………… 17万人（前年比△ 8.3%）

◆消費者の財布のヒモは依然固いようだが、今回の調査では、来場者の消費金額（客単価）が「増えた」とする施設も19.0%に上った。リニューアルした動物園や体験施設、3D映画など話題性のある施設だけでなく、来場者が前年より増加した屋外イベントでは、客単価が増える傾向がみられるなど、一部に消費マインドの変化の兆しがみられ、“好天”といった天の恵みを活かし、こうした流れを、さらに好転させていく取組みが期待される。



▲賑わいをみせた浜松まつり



▲華やかな舞を見せる
シズオカ・サンバカーニバル



▲紫のかれんな花を楽しめる
藤まつり

写真出所：社団法人静岡県観光協会
シズオカ・サンバカーニバル実行委員会
藤枝市

東・中・西部地域とも、前年を上回る

今年のゴールデンウイーク（以下、GW）は、期間が4月29日～5月9日と、日数では昨年（4月25日～5月6日）から1日減って11日となった（図表1）。しかし、4月30日の金曜日を休日にするれば、4月29日から5月5日まで7日間の連続休暇が可能な大型連休であった。

また、静岡県を中心としたGWの天候（静岡地方气象台発表）は、29日に一時雨を記録したほかは、土・日・祝日はおおむね好天で、各種イベントの中心となる1～5日は、絶好の行楽日和となり、イベントなどに多くの人が出かけた。

こうした好条件のもと、静岡県内の主なイベントや観光施設など242カ所の人出は延べ612万人、前年比+5.3%の増加となった（詳細は7頁付表参照）。

地域別では、東・中・西部とも前年実績を上回った。とくに、西部地域では、「浜松まつり」や「長藤まつり」といった屋外イベントで集客を伸ばし、人出は前年比+10.2%と増加した（10万人以上集客したイベント、施設は図表2のとおり）。また、中部地域や東部地域でも屋外のイベントや施設を中心に、それぞれ同+1.1%、同+1.0%となった。

図表1 ゴールデンウィークの曜日配列と静岡市内の天気

	4/29	30	5/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2010年	木 ☁/☀	金 ☀	土 ☀	日 ☀	月 ☁	火 ☁	水 ☀	木 ☁/☀	金 ☔	土 ☀/☁	日 ☁	
	4/25	26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6
2009年	土 ☔	日 ☀	月 ☀	火 ☀/☁	水 ☀	木 ☀	金 ☁/☀	土 ☀	日 ☁	月 ☁	火 ☔	水 ☔

…… 平日
 …… 土曜日
 …… 日曜日、休祝日

資料：静岡地方気象台の発表を参考に当所にて作成

以下では、イベントや観光施設を5つのグループに分けて、今年の特徴を整理し、集客への取組みを紹介していく。

1. イベント、祭り (38 先)

前年比 + 16.1%

～好天に誘われ、多くの人出でにぎわう～

イベントや祭りの集客数は、今年は期間を通じてほぼ好天に恵まれたことから、全体で277万人、前年比+16.1%と、大幅に増加した。

とくに、県内随一の規模を誇る「浜松まつり」(浜松市)は、開催日(5月3～5日)の3日間とも晴天だったことから、170.6万人(同+15.3%)の人出となった。

また、今年は4月に低温が続いたため、藤やつつじなどの花がちょうどGW期間中に見頃を迎え、花を観賞するイベントが盛況であった。藤

枝市の「藤まつり」が15.6万人(同+51.8%)、前述の「長藤まつり」(磐田市)が13.2万人(同+64.0%)のほか、伊東市の「小室山つつじ祭り」が7.4万人(同+33.6%)というように、花をテーマにしたイベントは、前年を大きく上回ったところが多かった。

一方、中心市街地で開催されたイベントも好調だった。5月3～4日に開催された「シズオカ・サンバカーニバル」(静岡市)では16.0万人が訪れ(同+6.7%)、「来街者が予想以上に多く、警備に係る人数を急遽増やした」といった声も聞かれるほどであった。また、5日に開催された「春の大通り商店街まつり」(三島市)も、3.5万人(同+288.9%)となった。

このほか、恒例の「浅間大社やぶさめ祭」(富士宮市)や「由比桜えびまつり」(静岡市)も、前年を2ケタ以上上回る来訪者があり、多くのイベントが前年を上回る人出で賑わった。

図表2 静岡県内のGW集客10万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比
1	浜松まつり (浜松市)	170.6万人	+15.3%
2	シズオカ・サンバカーニバル (静岡市)	16.0万人	+6.7%
3	藤まつり (藤枝市)	15.6万人	+51.8%
4	富士川楽座 (富士市)	14.8万人	+6.3%
5	長藤まつり (磐田市)	13.2万人	+64.0%

資料：当所アンケート

アミューズメント施設、 参加・体験型施設 (99 先)

前年比 $\Delta 0.3\%$

～屋外施設やキャンプは好調～

アミューズメント施設や参加・体験型施設の集客数は、全体で260万人、前年比 $\Delta 0.3\%$ の減少と、ほぼ前年並みとなった。好天が続いたことから、参加・体験型施設やキャンプ場で前年を上回った施設が多かったほか、3D映画が話題の映画館にも多くの人足を運んだ。

参加・体験型の施設では、野外施設を中心に伸びた。「富士ミルクランド」(富士宮市)では、9.2万人(同+4.5%)が家族連れで賑わったほか、「伊豆修善寺サイクルスポーツセンター」(伊豆市)は、同+14.7%、また、5月1～5日まで毎日異なるイベントを開催した「森町体験の里 アクティ森」(森町)では、同+79.9%、今年リニューアルオープンした「伊豆アニマルキングダム」(東伊豆町)も、同+102.4%の大幅増となった。

さらに、「浜名湖パルパル」(浜松市)では、特別料金のフリーパスを販売したり、16時以降の入園料を半額にするなど割安感を演出した効果もあって、同+70.7%の5.3万人の入場者を数えた。

ただし、新茶が味わえる一部の施設からは、「3月下旬以降の凍霜害による新茶の遅れから、昨年ほどの集客は見込めなかった」といった声も聞かれた。

また、天候に左右されるキャンプ場は、「今年のゴールデンウィーク中は天気も良く、今までにない人出で賑わった」(田貫湖キャンプ場、富士宮市)というように、多くの施設で前年を上回る人出となり、「東京、千葉、名古屋など遠方からの方が多数あった」(三ツ星キャンプ場、川根本町)という。

さらに、屋内施設でも映画館は、県西部に大型の映画館が新規開館した影響から、一部に集客数を減らした施設も見られたが、“アリス・イン・ワンダーランド”や“タイタンの戦い”など3D映画の人气が高く、前年実績を上回った映画館が多かった。

一方、交流拠点は明暗が分かれた。道の駅などの施設は、昨年に続きETC割引が適用され、マイカーで出かける人が多く、GW日数が1日少ないながらも、全体では前年並みとなった。なかでも、「富士川楽座」(富士市)は、14.8万人(同+6.3%)と順調な入込となったほか、「駐車場の利用がとて多かった」という「ベイ・ステージ下田」(下田市)でも+15.0%増となった。

しかし、「グランシップ」や「ツインメッセ静岡」(ともに静岡市)などの屋内施設は、晴天で屋外イベントに利用客が流れたことに加え、両施設とも、期間中に集客力の高いイベント企画・施設利用がなかったことから、それぞれ前年比2ケタの落込みとなった。

3. 動植物園、水族館 (22 先)

前年比 $\Delta 12.4\%$

～全体では、客足伸びず～

動物園、植物園、水族館などの来場者数は38万人と、前年比 $\Delta 12.4\%$ の減少となった。

西部地域では、「浜名湖ガーデンパーク」(浜松市)が、今年は、昨年と比較して大規模イベントを開催しなかったことから7.2万人(同 $\Delta 53.6\%$)と大きく減少した。一方、「浜松市動物園」や「はままつフラワーパーク」(ともに浜松市)などの周辺施設では、増加した。

中部地域では、「静岡市立日本平動物園」(静岡市)が、今年3月、動物を真近に見ることができ“猛獣館299(につきゅっきゅう～)”のオープンで話題となり、7.8万人(同+89.6%)と大幅な増加となった。「お子様連れのご家庭だけでなく、大人同士で来園していただいている割合も増えた」というように、幅広い年齢層を集客した。

一方、伊豆地域では、「海辺周辺でのレジャー(磯遊び、釣り)客が目立った」(下田海中水族館、下田市)ことや、「園内の花の生育が不良だった」(かわづカーネーション園・かわづ花菖蒲園、河津町)ことの影響により、入園者数が減少した動植物園、水族館が多かった。

4. 博物館、美術館、歴史資料館(49先)

前年比 △3.8%

～総じて低調、企画内容により差も～

博物館、美術館、歴史資料館は総じて低調で、全体の入場者数は20万人(前年比△3.8%)となった。入場者数が同△41.3%減少となった「静岡科学館る・く・る」(静岡市)では、「屋外での行楽志向が強かった」と見ているほか、同△30.9%となった「音戯の郷」(川根本町)では、「天候もよかったので、入館をしなくて周辺を散策するような人が多かった」とコメントしており、好天に恵まれたことが、屋内中心の博物館や美術館にとってマイナス要因となったようである。

こうした中、「静岡県立美術館」(静岡市)では、期間中の入場者数が2.2万人(同+36.7%)となった。「『伊藤若冲アナザーワールド展』^{じくちゆう}」が人気で、いつも以上に県外からの問い合わせが多い」と話しており、企画力の高さが集客につながったようである。また、「浜松市美術館」(浜松市)でも、期間中の入場者数が9千人(同+156.0%)となったが、同館では「展覧会の告知を各種報道媒体で大規模に行ったため、増員につながった」とみており、訴求力が集客につながった。

一方、「沼津御用邸記念公園」(沼津市)では、和太鼓や大正琴の演奏会や、水墨画展などのイベントを開催し、来場者数は9千人(同+6.3%)となったが、「例年になく好天に恵まれ、個人客およびファミリー客が来場された」という。

5. 日帰り温泉施設(34先)

前年比 △8.3%

～屋外レジャーを優先、人出は前年を下回る～

日帰り温泉施設の入場者は17万人で、前年比△8.3%の減少となった。回答を得た34施設(新規リニューアルしたため前年比較ができない1施設を含む)のうち、前年比プラスとなった施設は5施設と、ほとんどの施設でマイナスとなったことが、日帰り温泉施設における今年のGWの特徴

といえる。

これは、GWの日数が前年と比較して1日少ないうえに、「好天に恵まれ、梅ヶ島に多数のお客様が見えましたが、野外でのバーベキュー等が主で、昨年よりも来館者数は減少」(梅ヶ島新田温泉黄金の湯、静岡市)といった声や、「午前中のお客様が少ない」「夜の来客が昨年度より増えた」といった意見がみられたことから、好天続きで、多くの人が、日中の屋外レジャーを優先した影響を受けたとみられる。

地域別で見ても、東部(同△9.5%)、中部(同△3.9%)、西部(同△11.8%)と、いずれの地域もマイナスとなった。

交通機関の利用状況は、道路と鉄道とも増加

交通機関の利用状況を見ると、中日本高速道路(株)が発表した4月28日～5月5日までの東名高速道路の交通量は、1日平均10万4,500台、前年比では+3.2%となった。今年は、好天に加え高速道路のETC割引が継続されたことで、昨年にも増してマイカーの交通量が増え、県内でも長い渋滞が発生した。

また、東名高速道路以外の有料道路の交通量は、全体で同+9.3%の増加となった。東部地区の有料道路では、通行料金を値下げした伊豆スカイラインで利用台数が同+32.9%と大きく伸びたほか、箱根スカイライン、修善寺道路、伊豆中央道のすべてで交通量が増加し、東部全体では同+14.3%の増加となった。一方、「浜名湖新橋(はまゆう大橋)」は、同△34.4%の減少となったが、これは、今年、「浜名湖ガーデンパーク」で、昨年ほどの大規模イベントが開催されなかった影響とみられる。

鉄道は、JR東海静岡支社管内における4月28日～5月5日までの新幹線の利用状況は、234万人と同+8%の増加、一方、在来線の特急列車は同△2%の減少となった。また、清水港-土肥港を結ぶ「駿河湾フェリー」(株)エスパルスドリームフェリー)は、輸送台数は同△1.4%となった

コラム 富士山静岡空港の利用実績、観光施設への影響、入場者数

開港後、初めてのゴールデンウィークを迎えた富士山静岡空港。GW期間中（4月28日～5月5日）の利用実績を路線別にみると、国内線では、おおむね、開港からの累計搭乗率を上回る利用となった（静岡～札幌線、福岡線は、今年3月末までJALが運航したため、単純比較できず）。静岡発のピークであった4月29日の午前中は、空港内が出発客で混雑するなど、空港が県民や観光客の新たな交通インフラとして活用されていることがうかがえ、静岡着のピークは5月5日となった。一方、国際線は、ソウル線・上海線とも、累計搭乗率を下回った。

空港開港による観光施設への影響は、空港周辺地域の一部の施設で、「外国人の来客が増えた」「北海道など遠方からの来客があった」といった声が聞かれたほか、東部地域の温浴施設でも「外国人のお客様の来遊が多くなった」といった感想もあり、全体的にも少しずつ効果が見られ始めている。

また、富士山静岡空港の4月29日～5月9日までの入場者数は6万5,800人に上り、空港施設はレジャー、見学施設としても、県民に関心や興味を持たれている。

GW期間中の搭乗率と搭乗者数

	路線	航空会社	GW中搭乗者数(人)	GW中搭乗率(%)	開港～22年3月累計搭乗率(%)
国内線	静岡～札幌	全日空	1,448	75.4	65.2
		FDA	958	76.3	79.4 ※1
	静岡～小松	FDA	1,571	64.6	45.2
	静岡～福岡	FDA	2,440	69.3	67.0 ※1
	静岡～熊本	FDA	914	74.7	47.3
	静岡～鹿児島	FDA	959	78.9	60.9
国際線	静岡～ソウル	全日空	1,583	82.4	79.5
	静岡～ソウル	アジアナ	1,975	66.3	71.8
		大韓	1,940	64.8	65.3
	静岡～上海	中国東方	※2	47.9	52.1
	合計	—	13,788	70.9 ※3	66.4 ※3

※1 JALの実績 ※2 搭乗者数は公表せず ※3 上海線は除く

資料：静岡県公表資料をもとに当所にて作成

ものの、輸送人員は同+3.8%と前年を上回った（4月25日～5月6日）。

さらに、昨年6月に開港した富士山静岡空港のGW中の利用実績は（4月28日～5月5日）、全日空が3,031人、FDAが6,842人で、国内線は9,873人となった（コラム参照）。一方、国際線は、ソウル線が3,915人（上海便の搭乗率は47.9%）となった。

消費者の財布のヒモは、依然固いものの、一部に消費金額が増加した施設も

今年のGWは、昨年と比べて1日少ないが、曜日配列から長期休暇がとりやすく、GW前には、海外旅行者が3年ぶりに50万人を越える見込みなど、比較的、人出が期待できる連休であったといえる。

こうした中、県内のイベント・施設への人出は、前年比+5.3%と好調な結果となった。これは、GW中の休日や祝日の天候に大きく恵まれたことに加え、高速道路のETC割引制度が継続された

ことが、人々の外出を促したとみられる。実際、「例年にない好天に恵まれ、予想外の人出になった」といった声も多く、キャンプや花をテーマとした季節感のある屋外イベント・施設を中心に、賑わった。

また、今回の調査によれば、来場者の消費金額（客単価）は、「昨年並み」とする回答が全体の40.5%を占めており、依然として、来場者の財布のヒモは固い様子が伺えるものの、「増えた」も19.0%に上った（「減った」21.5%、「わからない」19.0%）。リニューアルした動物園や体験施設、3D映画など話題性のある施設だけでなく、「客単価も上がり、久々に活気あるGWだった」（参加・体験施設）といった声や、来場者が前年より増加した屋外イベントでは、客単価が増える傾向がみられるなど、一部に消費マインドの変化の兆しを感じさせる結果であった。

“好天”といった天の恵みを活かし、こうした消費の流れを、さらに好転させていく取組みが、期待される。

付表 2010年GW 静岡県内イベント・観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
富士川楽座	富士市	148,004	+ 6.3
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	98,000	△ 8.2
富士ミルランド	富士宮市	91,769	+ 4.5
浅間大社 やぶさめ祭	富士宮市	90,000	+ 12.5
小室山つつじ祭り	伊東市	74,000	+ 33.6
姫の沢公園	熱海市	61,500	+ 24.2
道の駅 ふじおやま	小山町	37,188	+ 5.2
春の大通り商店街まつり	三島市	35,000	+ 288.9
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	30,500	+ 102.4
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	30,471	+ 14.7
修善寺 虹の郷	伊豆市	25,295	△ 2.4
ベイ・ステージ下田	下田市	24,921	+ 15.0
こいのぼりフェスティバル	沼津市	23,000	△ 6.5
田貫湖キャンプ場	富士宮市	19,260	+ 37.4
三島市立公園 楽寿園	三島市	15,403	+ 14.9
沼津港大型展望水門「びゅうお」	沼津市	15,127	+ 65.9
伊東温泉競輪	伊東市	14,743	△ 13.0
松崎町たんぼを使った花畑	松崎町	14,168	+ 2.0
恋人岬	伊豆市	13,757	+ 17.8
酪農王国 オラッチェ	函南町	13,682	+ 3.3
下田海中水族館	下田市	12,725	△ 16.2
初島ところ天まつり	熱海市	12,507	+ 25.2
下田ロープウェイ	下田市	9,749	+ 10.5
沼津御用邸記念公園	沼津市	8,987	+ 6.3
富士花鳥園	富士宮市	8,836	△ 13.1
大仁瑞泉郷	伊豆の国市	7,344	+ 25.5
土肥金山	伊豆市	7,274	△ 14.0
マリンスパあたま	熱海市	7,009	△ 15.5
初島アイランドリゾート	熱海市	6,859	+ 28.2
秩父宮記念公園	御殿場市	6,762	△ 9.6
港の朝市	東伊豆町	6,347	△ 11.0
あわしまマリンパーク	沼津市	6,075	+ 5.9
富士山天母の湯	富士宮市	5,698	△ 15.2
金太郎春まつり	小山町	5,000	△ 13.8
東部地域その他 78カ所		953,365	—
東部地域 合計		1,940,325	+ 1.0
シズオカ・サンバカーニバル	静岡市	160,000	+ 6.7
藤まつり	藤枝市	156,400	+ 51.8
静岡市立日本平動物園	静岡市	77,950	+ 89.6
由比桜えびまつり	静岡市	70,000	+ 16.7
富士山静岡空港	牧之原市・島田市	65,800	—
MOVIX清水	静岡市	37,444	+ 7.6
さがら草競馬大会	牧之原市	28,000	+ 3.7
大井川港朝市	焼津市	25,000	± 0.0
静活(映画館)	静岡市	22,681	+ 61.4
グランシップ	静岡市	22,003	△ 65.2
静岡県立美術館	静岡市	21,958	+ 36.7
川根温泉 ふれあいの泉	島田市	17,886	△ 4.3

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
久能山東照宮	静岡市	15,525	+ 2.5
アウトソーシングスタジアム日本平	静岡市	15,396	+ 1.8
東海大学社会教育センター	静岡市	13,623	△ 12.8
体験工房 駿府匠宿	静岡市	12,990	△ 14.1
草薙総合運動場	静岡市	12,771	△ 50.9
静岡科学館る・くる	静岡市	11,938	△ 41.3
ディスクアリーパーク焼津天文科学館	焼津市	9,441	—
瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	9,376	△ 1.4
島田市ぼらの丘公園	島田市	8,397	+ 9.9
静岡市ふれあい健康増進館ゆらら	静岡市	8,328	△ 8.7
中部地域その他 41カ所		400,897	—
中部地域 合計		1,223,804	+ 1.1
浜松まつり	浜松市	1,706,000	+ 15.3
長藤まつり	磐田市	132,000	+ 64.0
浜名湖ガーデンパーク	浜松市	71,592	△ 53.6
道の駅 潮見坂	湖西市	57,212	△ 4.4
浜名湖パルパル	浜松市	53,453	+ 70.7
静岡県立森林公園	浜松市	42,000	+ 10.5
浜名湖競艇場	湖西市	39,613	△ 24.7
浜松市動物園	浜松市	38,443	+ 9.0
浜松オートレース場	浜松市	37,131	△ 7.6
TOHOシネマズ 浜松	浜松市	26,735	△ 15.7
掛川花鳥園	掛川市	25,602	△ 11.9
はままつフラワーパーク	浜松市	21,475	+ 2.8
航空自衛隊 浜松広報館	浜松市	19,369	△ 17.4
はままつフルーツパーク	浜松市	19,325	△ 0.4
竜ヶ岩洞	浜松市	16,656	△ 0.6
浜岡原子力館	御前崎市	15,420	△ 22.5
採れたて元気村	磐田市	13,084	+ 1.8
大東温泉シートピア	掛川市	12,684	△ 2.8
あらたまの湯	浜松市	12,544	△ 8.4
ヤマハスタジアム	磐田市	12,020	—
森町体験の里 アクティ森	森町	10,830	+ 79.9
掛川城	掛川市	10,350	+ 23.3
天竜相津 花桃の里	浜松市	8,890	+ 7.1
浜松市美術館	浜松市	8,828	+ 156.0
浜松城	浜松市	8,822	+ 2.5
浜松アリーナ	浜松市	8,739	+ 44.8
アメニティプラザ	湖西市	8,030	△ 18.7
いっぶく処横川	浜松市	7,761	+ 1.7
くんま水車の里	浜松市	6,250	△ 9.9
浜松市博物館	浜松市	5,470	△ 31.2
森の都温泉 ならこの湯	掛川市	5,240	△ 11.9
浜名湖体験学習施設ウオット	浜松市	5,128	△ 26.1
西部地域その他 35カ所		489,958	—
西部地域 合計		2,956,654	+ 10.2
静岡県 合計		6,120,783	+ 5.3

注1) 上記付表は、データの公表が可能な入込客数が5,000人以上の施設、イベントのみを掲載した。

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可とした施設やイベントの数字を合算して記載した。

注3) 入出の合計値は本年度の実数が把握可能なすべての数値を合算、前年比は本年と前年の両数値が把握可能な施設のみで算出。

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、390先に調査票を郵送、うち242先から回答を得た(回答率62.1%)。